
ある時代、ある場所。ある二人の哀しい物語。

日野波音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある時代、ある場所。ある二人の哀しい物語。

【Nコード】

N9772H

【作者名】

日野波音

【あらすじ】

ポルノグラフィティの「カルマの坂」のパロディです。

(前書き)

あらすじでも紹介しましたが、これはポルノグラフィティの楽曲、「カルマの坂」のパロディです。
苦手な人はバツクでお願いします。

また、この作品はポルノグラフィティや「カルマの坂」とは一切関係ありません。

一部、血の表現があります。

ある時代

ある場所

ある二人のお話

中世ヨーロッパのとある時代。とある場所。

少年は薄汚い格好で路地裏にいました。

その少年は死んだ目をして街を見ています。

なんで神様は僕を見放したんだろう？

ある日。

少年は生きるために盗みを覚え、パンやリンゴをお店から盗んでき

ました。

醜く太った大人たちが少年を追いかけますが、風のように走る少年には追いつきません。

必死に走り、大事そうにパンやリンゴを抱える少年は長い行列とすれ違いました。

そこで見た、美しい少女。

純白のワンピースがよく似合っていました。

少女は悲しそうに地面を見えています。

少年はそんな彼女の姿に心を奪われ、

「護ってあげたい」

という気持ちが変わってきました。

しばらくして少女はその場から離れ、言葉にはならない叫びを叫びながら走っていきました。

少年も少女を必死になって追いかけます。

盗んできたパンやリンゴもちゃんと抱えて。

やがて着いたのは小さなお城。

まるで少女のために造られたような、真っ白い綺麗なお城。

少女はその中に消えてしまいました。

少年はずっと見えています。

ずっと、ずっと

次の日、少年はまたそのお城に来ていました。お城の門には門番が二人いて、少年は存在してないかのようにされてました。

そして少年は一つ、決めました。

少年に力はありません。

人を護る力も。

ましてや、今日を生き延びていく力さえも。

だけど力のない少年は、思想を与えられていないであろう、少女を救うために大きな盗みをしようとしていました。

夕日が輝く頃。

少年は騎士団の行列の中に紛れ込んで、彼に似合わない、大きな剣をこっそりと盗んできました。

そしてまた少女がいるお城へと向かうため、長い長い、カルマの坂を上ります。

彼に似合わない、大きな剣を引きずりながら。

お城に着くころにはもう、日も暮れていて、少し暗くなってきました。

門番は構わず、その場所から一步も動かず門の前にいました。まるで、少年を待ち構えていたかのように。

少年は門番二人に笑いかけます。

それは魂を壊されたかのような、ひどく不自然の笑み。

少年はヨロヨロと剣を振り上げ、力いっぱい降ろします。門番の一人が派手に血を撒き散らして倒れます。

もう一人の門番は少年を捕まえようとしたが、少年はいつものように、醜く太った大人たちから逃げるように走ります。でも、その姿は風のように哀しすぎでしょう。

それでも少年は少女のいるお城の中へと入っていきます。

追ってくる兵士達を少年は斬っていきます。

邪魔する者はすべて斬っていく。

その度に少年の小さな体には返り血が飛び散り、小さな少年の息は乱れていくばかりです。

だけど少年は自我を失ったかのように、ただ、斬って行きます。

いつしか少年はお城の頂上まで来ていました。

そこには小さな一つの扉。

その中に少女は閉じ込められているんです。

少年の体を月明かりが照らし、血を不気味に演出していました。

少年が扉を開けると。

「こんばんわ」

純白のワンピースを身にまとった少女が笑いかけてきました。

「こんばんわ」

少年も挨拶を返します。

「どのような御用で？」

少女は優雅に少年に話しかけます。

「あなたを、助けに、来ました」

「私を……？」

「はい」

少女は悲しそうな瞳をします。

「それはそれは。でも、私はいいんです」

「でも……昨日見かけたとき……」

「私はこうやって生きていくしかないんです」

哀しそうに笑う少女。

少年は胸を痛めました。

「もし、あなたが本当に私を助けてくれるのなら……」

「……」

「私を殺してください」

「え……？」

「あなたのその大きな剣で私を貫いて」

「何で……ですか？」

「いいのです、理由なんて。とにかく私は生きていくのに疲れたんです」

「そうですか」

そして少年は瞳の色を無くし、少女に問いかけました。

「神様がいるとしたら、なぜ僕らだけ愛してくれなかったのでしょうか？」

「それは、神様の残酷な悪戯ですわ」

壊された魂で少女は微笑みます。

そして少年もまた同じように微笑みました。

「そうですか」

そして少女に向けて大きな剣を振り上げ、力いっぱい降ろしました。
肉が斬れる音。

血が少年に降り注ぎます。

「人は皆平等などと、何処のペテン師の台詞だか知らない……」

少女を護りたかったのに……

でも、少年からは悲しみの涙は流れませんでした。

その代わりに空腹を思い出しました。
そんな自分に苦笑します。

少女に突き刺さった剣を抜き、天井を仰ぎながら少年は呟き自らに
刃先を向けて、最期の一振りを少年に振りました。

少年の亡骸は、少女の上と被さるようにあります。

純白のワンピースは最早、どちらの血か分からないくらい、赤黒く
染まっていました。

それから何年も経った今。

未だに少年と少女の亡骸はありました。

誰も探しに来ることは無く、ましてやそのお城に立ち寄ることさえ
ありませんでした。

お話はここで終わり。

ある時代、

ある場所。

ある二人の哀しい物語。

(後書き)

いかがだったでしょうか？

私が聴いて感じた「カルマの坂」のイメージです。

これからもゆっくりながら更新していくので読んでいってくださいねw w

ではありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9772h/>

ある時代、ある場所。ある二人の哀しい物語。

2010年11月23日16時51分発行